

危険物火災想定し訓練

安全週間に伴い

工場で消火や情報共有など



消火活動を行う隊員たち

要な知識や行動を確認した。

石油類など危険物は日常生活の中で幅広く利用されているが、同

週間は、その安全確保を再度確認し啓発する

ことで、各事業所における自主保安体制の確立を図ろうと、毎年6

月の第2週を中心に各種事業を行っている。

富士宮市では今年、同社での消防訓練のほか、同市小泉の駿河石油(株)セルフ富士宮給油

所で吉美児童クラブの少年消防クラブ員12人

が同日、利用者に向けて、全国危険物安全協会が作成したリーフレ

ットの配布など広報活動を展開した。

同社での訓練は、「工場の屋外タンクから出火し火災が発生している」という想定で行われた。

工場内で第1発見者が火災発生を連絡。工

場構内に一斉に緊急放送が流れ、社員は安全な避難場所へ移動、す

ぐに災害対策本部が設置された。消防署へ火

災の様子をライブ119で通報し、中央消防署、西消防署の隊員が到着すると社内の誘導

員が消防自動車を現場まで誘導するなど適切な行動を素早く行っ

た。また消防隊員は情報や現場の状況などを把握し直ちに消火活動

に入り、火元のタンク

の消火といった行動を、社員と情報連絡を密にしながら展開した。

終了後に講評を述べ

た菅原一朗市消防長は「危険物施設での火災

は毎年、全国で10件ほど発生している。災害の原因は人的ミスや施設の老朽化によるもの

で、万一発生した時には、そこで働く従業員

の生命や付近の住民にまで被害が及ぶ可能性がある。今日の訓練は緊張感をもった行動で

スムーズに行われたが、社内でのあらゆる

災害に対応できるように今後も訓練の継続を

お願いしたい」と述べた。

危険物の安全管理を

啓発する危険物安全週

間(8~14日)に伴う

消防訓練が11日、富士

宮市内房のCHEMI携し、工場内で危険物

PAZ(株)静岡工場で行

火災発生を想定した通

報、情報共有、本部設

置、消火などの訓練を

展開。今後、災害時に

円滑に動けるように必

要な知識や行動を確認

した。

石油類など危険物は

日常生活の中で幅広く

利用されているが、同

週間は、その安全確保

を再度確認し啓発する

ことで、各事業所にお

ける自主保安体制の確

立を図ろうと、毎年6

月の第2週を中心に各

種事業を行っている。

富士宮市では今年、同

社での消防訓練のほか、

同市小泉の駿河石油

(株)セルフ富士宮給油

所で吉美児童クラブの

少年消防クラブ員12人

が同日、利用者に向け

て、全国危険物安全協

会が作成したリーフレ

ットの配布など広報活

動を展開した。